



# とんぐり



パークセンターだより 第86号 2007年8月・9月号

## こならの木

自然解説員  
ふじ田たい泰しもつけの やま こならの  
下毛野みかもの山の小櫓如すまぐわ こ た け も  
目細し児ろは誰が笥か持たむ(3424)

この詩は、万葉集に詠まれている詩です。「栃木県の三鴨の山の小櫓のように、美しい可愛らしいあの娘さんは誰の食事の世話をするのだろうか。」言い替えれば「誰のお嫁さんになるのだろうか。」という意味の詩なのです。

コナラは、私たちが住んでいる近くの山野で普通に見られる木で、21世紀の森と広場にもたくさん生えています。

昔、この詩を詠んだ人は、このコナラの木を見て、美しい可愛らしいと感じたのですね。皆さんはどう思いますか。昔の人は、なにげない草や木に、情緒を感じ感動する心をもっていたのだと思います。

コナラは、私たちの身近に見られる木ですが、大昔、人が火を使い始めたときから、食事をつくったり、暖をとったりするための大切なエネルギー源だったのです。コナラは昭和40年(1960年)代はじめまで、薪や木炭として、私たちの生活と深いかわりをもっていたのです。現在はシイタケなど、キノコを生産する「ほだ木(原木)」として使われていますが、その利用量も菌床栽培の普及や、キノコの輸入量の増加などにより年々少なくなっています。このため、コナラは大きく成長し、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)吸収源のいち林木として、地球温暖化防止などの役割を担いながら、自然災害の防止、水源のかん養、大気の浄化、自然景観の維持など、さまざまな恩恵を私たちに与えてくれていると考えられます。

コナラはブナ科に属する木で、北海道南部から、本州、四国、九州の日当りのよい山地や丘陵に普通に見られ里山を代表する木となっています。冬になると

葉を落とす落葉高木で、幹(樹皮)は灰黒色で縦に不規則な溝ができています。葉には長さ10～15mm ぐらいの柄(葉柄)があり、葉の表面は濃い緑色、裏は淡い緑色で若いときには短い灰色の軟毛で覆われ、縁には鋸の歯のようなぎざぎざ(鋸齒)があります。花は、春に新しい葉が開くと同時に、新しい枝の下に「かんざし」のように垂れ下げた雄花が着きます。雌花は、その先に伸びた新しい枝の先端に近い葉の付け根(葉腋)に目立たないように着きます。そして毎年ドングリを地上に落としてくれるのです。(ドングリはお椀のような形の、総包が変化したウロコ状の殻斗がついている。)昔の人は、このドングリをいろいろ工夫して美味しく食べたことでしょう。

21世紀の森と広場内の縄文の森には、大昔の人が住んでいた家が復元されています。その家のなかでは実際にどんぐりなどを石器ですりつぶす体験ができます。縄文時代の人の生活のひとこまに思いを馳せてみてはいかがでしょうか。(縄文体験については松戸市立博物館 047-384-8181 へお問い合わせ下さい)

写真1

コナラの雄花が目立ちます



写真2

ドングリを着けたコナラ



参考文献：万葉の花

松田 修 芸林堂

有用樹木図説(林木編) 林 弥栄 誠文堂新光社

平成19年版 森林・林業白書 日本林業協会

# シクラメンの植替え

みどりの相談員  
こばやしきよじ  
小林喜代次

シクラメンは秋植え春咲き<sup>きゅうこん</sup>球根植物です。  
シクラメンは地中海沿岸地方が原産地で、3月ごろが自然開花です。6～10月は雨のない高温乾燥<sup>かんそつ</sup>期で、葉が枯れて球根は土中で休眠します。10月ごろになり気温が低くなり雨も降り始めると球根が休眠から覚め、発根、発芽して生育を再開します。このようにシクラメンは秋から生育し、春に開花する植物です。

## シクラメンの植え替え

一般に2年に1回植え替えですが、夏の高温多湿<sup>こうおんたしつ</sup>というシクラメンにとって最も悪い環境<sup>こ</sup>をのり越えるので、軽い根痛みや、病気が発生することがあります。



したがって、夏越ししたシクラメンは毎年新しい土に植え替えます。

植え替えの時期 9月上旬～中旬

植え替え方法（土を乾かして球根<sup>きゅうこん</sup>を休眠させて夏越ししたもの）

- ・鉢<sup>はち</sup>から球根とり出します（腐<sup>くさ</sup>っていないければ植え替え）
- ・芽の部分を傷めないように作業します（発芽し始め）
- ・古い根は3～4cmぐらい残して切り詰める。
- ・根を整理した球根を水洗いし、土を完全に落とす。
- ・理想的には消毒殺菌<sup>しょうどくさつきん</sup>
- ・植え替えの用土（新しいもの）例（赤玉小粒7＋腐葉土かピートモス3）  
（根腐れ防止のため珪酸塩白土を5～6号鉢で小さじ2杯入れます。肥料は化成肥料を用土1 当たり3gほど混ぜます）
- ・ひと回り大きな鉢に植えます（鉢底にゴロ土を入れて水はけをよくする
- ・球根が半分ぐらい見えるように浅植えにします。
- ・最後に水を十分に与え、土と球根を落ち着かせます。

## その後の管理

- ・一週間ほど明るい日陰で育ててから、日当たりで育てる
- ・水やり（表土が乾いたらタップリ与えます）
- ・肥料（<sup>ひりょう</sup>植え替え 1 ヶ月後から月 1 回化成肥料か液体肥料を与えます）
- ・アブラムシ、ダニ、灰色かび病などに注意



## みどりの相談室

パークセンター「みどりの相談室」では、相談員の先生が園芸に関するさまざまな質問に無料でお答えします。電話でもお受けしていますのでお気軽にご相談下さい。

【相談日】 水・土・日曜日と祝日

【時間】 午前10時～12時・午後1時～3時30分

【電話】 047-345-8738 <sup>ハナミツパチ</sup>

## こめっこクラブの活動報告



田植え作業

5月に「こめっこ」達が植えた稲は順調に成長を続けています。6月に除草作業、7月には豊作になるよう願いを込めてみんなでカカシ作りに挑戦しました。公園にお越しの際はぜひみどりの里にあるたんぼの様子を見て下さいね。かわいいカカシ達がお出迎えしてくれますよ

今年度のこめっこの募集は終了しています。



カカシ作り



# 増え続けるカワウ

自然解説員  
今村裕之

ウの仲間、世界で33種、日本では、カワウ、ウミウ、ヒメウ、チシマウガラスの4種が見られます。

ウミウは、冬期三浦半島の城ヶ島が有名でしたが、今では、千葉県の銚子漁港に行けば護岸の上に沢山並んでいるのが見られます。ヒメウも、銚子漁港で見られますが、数が少なく、犬吠崎灯台近くの岩礁の方がよく見られると思います。

ウミウに比べ体が小さいからか、ヒメウはウミウより岩の低いところにいます。両種は同じ岩礁に乗っていることが多いので、比べればすぐにわかります。大きくて嘴が太く頬が白いのがウミウで、ヒメウは全身黒く嘴が細いです。ウミウもヒメウも内陸には来ません。

チシマウガラスは、今では、北海道へ行っても、なかなか見ることが出来ません。

一番身近なカワウは、ウミウに似ていますが、肉眼での識別はなかなか難しいです。カワウは、21世紀の森と広場の千駄堀池にも、1年を通して少数が飛来しますが、冬の方が良く見られるでしょう。

観察会を行った時、上空を飛ぶカワウを見ますが、以前は、上野不忍池から飛んで来ますと答えていましたが、今では、東京葛飾の水元公園からも、飛んで来ると思います。

30年程前、上野不忍池で親子のこんな会話を聞いたことがあります。

ぼく「お母さんあの黒い鳥は何て言うの」

お母さん「あの黒い鳥はカラスだよ」

ぼく「でもあのカラス水に潜ったよ」

こんな会話を聞いて子供に聞かれて答えられるようにと鳥を見始めました。

そのころカワウと言えば、上野不忍池。不忍池のカワウは、千葉の大巖寺から数羽を移住させたのが、初めだとか。不忍池では数千羽に増えたカワウ、動物園内にある中の島の木々に巣を作ったが、糞が酸性のため、木々は枯れ、今ではコンクリート製になっています。増えすぎたカワウは少しずつ、繁殖地を広げて行きました。木更津の小櫃川河口、行徳野鳥保護区、なかでも、浜離宮庭園には、多い時で、1万1千羽（平成8年）のカワウがいたと言います。

浜離宮庭園では、カワウのために、木々はおろか、土の表面にまで、白い糞が



覆い尽くし、沢山の木が枯れ、このままではと追い出し作戦を敢行、カカシを立てたり、光る短冊をつるしたりしたが、なかなか出て行ってくれず、池の上に「糸張り」と言う作戦をやって見たところ。数日で、1万1千羽のカワウがいなくなると言う。

その後、この1万1千羽のカワウはどこへ行ったのだろうか、話では、近くの第六台場や、行徳野鳥保護区で増えたと言われています。

江戸川で、数百羽のカワウが泳いでいるところを見たことはありませんか。カワウは群れで行動し、餌の魚を追います。大群で魚を追うと、逃げまどう魚、この漁法の方が、効率が良いのです。

先日、某テレビ局から、自然観察舎へ電話が掛けて来たことがあります。「視聴者の方から、ビデオテープが送られて来て、江戸川にガンの大群が飛んでいました。雁行のように、鉤になったり竿になったりしていました。」ガンなののでしょうか？という問合せがありました。「そんな大群のガンが松戸へ飛んで来たことはないと思いますよ。それはカワウの大群だと思います。カワウもガンと同じように、鉤になったり竿になったり、編隊飛行をします。」と答えました。

カワウはなぜこんなに増えたのでしょうか。平成18年東京でのカワウによるアユの被害状況をテレビ放映していました。東京では、約3500羽のカワウがいると言います。

1羽のカワウが1日に15匹くらいのアユを食べると言います。1日で約5万匹のアユが食べられることになります。このアユは友釣り用に放流されたアユなのです、カワウがこんなに増えたのはここに原因があるかも知れません。このまま増え続けたら、第2のカラスになりかねないですね。



伊豆沼のマガン



鉤になって飛ぶカワウ



# パークセンター 8月・9月の催し物



講座	日時	対象・人数	講師	費用	受付
園芸教室 「竹垣の作り方（実習有）」	平成 19 年 8 月 1 日（水） 13:30～15:00	どなたでも 20 人（要申込）	みどりの相談員 野口宣二氏	無料	7/15～
展示 「瓢箪作品展」	平成 19 年 8 月 4 日（土） ～10 日（金）	-	松戸瓢箪村	-	-
森のクラフト教室 「ひょうたん作品づくり」 笛づくり 行灯づくり	平成 19 年 8 月 4 日（土） 9:30～15:00（随時受付）	笛作り どなたでも 行灯づくり 中学生以上 当日先着 10 人	松戸瓢箪村	笛づくり 無料 行灯づくり 2500 円	当日
昆虫ウォッチング （雨天中止）	平成 19 年 8 月 5 日（日） 10:00～11:30	当日先着 25 人	自然解説員 吉岡明良氏	無料	当日
野草ウォッチング（樹木の観察もします） （雨天中止）	平成 19 年 8 月 12 日（日） 10:00～11:30	当日先着 25 人	自然解説員 藤田泰氏	無料	当日
みどりの講習会 「親子で作ろう森の動物 ～水ゴケで作るトビアー～」	平成 19 年 8 月 18 日（土） 13:30～15:30	小・中学生対象 （親子 2 名で 1 組） 20 組（要申込）	ガーデンコーディネーター 杉田佳子氏	2,000 円	8/1～
こども自然体験 「公園にいる昆虫をさがしてみよう！」	平成 19 年 8 月 19 日（日） 10:00～11:30	小学生対象 25 人（要申込）	自然解説員 田中宏卓氏 吉岡明良氏	無料	8/1～
こども手づくり教室 「葉っぱや木の実で壁飾り を作ろう」	平成 19 年 8 月 23 日（木） ・24 日（金） 13:30～15:30（随時受付）	小学生対象 当日先着 50 人 （各日とも）	ボランティア 辺の会	無料	当日
園芸教室 「家庭菜園 ～秋野菜の作り方～」	平成 19 年 8 月 25 日（土） 13:30～15:30	どなたでも 45 人（要申込）	みどりの相談員 小林喜代次氏	無料	8/1～
みどりの講習会 「バラの夏季剪定」	平成 19 年 8 月 31 日（金） 10:00～12:00	どなたでも 45 人（要申込）	バラ園芸アドバイザー 岩浪 孝氏	無料	8/1～
園芸教室 「秋蒔き草花の育て方 （実習有）」	平成 19 年 9 月 2 日（日） 13:30～15:00	どなたでも 20 人（要申込）	みどりの相談員 青島尚祐氏	無料	8/15～
昆虫ウォッチング （雨天中止）	平成 19 年 9 月 9 日（日） 10:00～11:30	当日先着 25 人	自然解説員 田中宏卓氏	無料	当日
みどりの講習会 「バイドロエコグリーン」	平成 19 年 9 月 14 日（金） 10:00～11:30	どなたでも 30 人（要申込）	園芸研究家 中川宏子氏	1,000 円	8/15～
野草ウォッチング（樹木の観察もします） （雨天中止）	平成 19 年 9 月 17 日（祝） 10:00～11:30	当日先着 25 人	自然解説員 藤田泰氏	無料	当日
みどりの講習会 「多肉植物のハンギングタブロー」	平成 19 年 9 月 22 日（土） 13:30～15:00	どなたでも 30 人（要申込）	ハンギングバスケットマスター 秋山英史氏	3,000 円	9/1～
園芸教室 「そば打ち体験」	平成 19 年 9 月 27 日（木） 13:30～15:30	どなたでも 20 人（要申込）	みどりの相談員 野口宣二氏	1,000 円	9/1～
バードウォッチング （雨天中止）	平成 19 年 9 月 30 日（日） 10:00～11:30	当日先着 25 人	自然解説員 直井 宏氏	無料	当日

注）予定に変更が生じる場合がございますので、  
詳細はパークセンターまでお問い合わせ下さい。



## しっち 湿地の観察会

自然観察舎では自然解説員と一緒に「自然生態園」の木道を歩く観察会を実施しています。費用は無料です。 平日は、自然解説員は同行しません。

### 【実施時間・実施日】

実施時間	日曜日・祝日	土曜	平日
10:30～10:50			
11:30～11:50			
13:30～13:50			
14:30～14:50			
15:30～15:50			

月曜日は休館日のため観察会は実施しません。

【定員】 先着25名（当日受付）

【受付】 自然観察舎 窓口

【電話】 047-340-4140

## ご来園の皆様へお願い

安全、快適に公園を利用していただくため、本公園ではいくつかのルールがあります。

**自転車**（キックボード含む）の乗り入れ、**ペット**の持ち込み、**テント**設営、**魚釣り**（たこ糸を使ったザリガニ釣りはOK、テグスは不可）などは禁止となっています。

また**動植物の採集**や鳥などへ**エサをやる**こともかたくお断りしています。きれいな花もみんなで採ったら無くなってしまいますし、<sup>かわい</sup>可愛いからと、人間の食べ物を鳥などにあげるとお<sup>なか</sup>腹をこわしたりして、かえってかわいそうなことになってしまいます。

ルールを守って楽しく遊んで下さいね。

発行日：2007年8月1日  
 発行：21世紀の森と広場パークセンター  
 開館：9:00～18:00  
 8月21日からは、  
 9:00～16:30  
 月曜休館（祝日開館/翌日休館）  
 〒270-2252 松戸市千駄堀269  
 TEL 047-345-8900  
<http://www.city.matsudo.chiba.jp/>

- ・ゴミは家までお持ち帰り下さい。
- ・なるべく公共の交通機関をご利用下さい。

